

会議結果報告書

令和6年6月3日

会議の名称	令和6年度 第1回 志木市地域自立支援協議会 全体会
開催日時	令和6年5月29日(水) 9時30分～10時30分
開催場所	志木市総合福祉センター 401・402会議室
出席委員	平野方紹委員、上田将史委員、佐々木明子委員、寺嶋深雪委員、 佐藤久美子委員、菅生征史委員、寺橋義雄委員、平井光代委員、 平澤純委員、村上有紀委員、日下喬史委員、村田敬吾委員、 北澤恭子委員、栗原理恵委員 (計14人)
欠席委員	小澤静枝 委員、鎌田昌和 委員 田中孝幸 委員、横山創 委員 林資子 委員 (計5人)
説明職員氏名	共生社会推進課 副課長 高山佳明、主査 森山夏子 (計2人)
傍聴者の数	1人
議 題	議題 (1)「第4期障がい者計画」「第6期障がい福祉計画」「第2期障がい児福祉計画」の進捗について報告 (2) 相談支援事業の実績報告について (3) 各部会報告 (4) その他
結 果	議事録のとおり
事務局職員	共生社会推進課長 的場裕行 副課長 高山佳明 主査 森山夏子 主任 白岩由貴 主事 小峰純希 基幹福祉相談センター 主任 野末奈緒美、主事 岡野美由紀
審議内容の記録 (審議経過、結論等)	
事務局	開会挨拶
事務局	協議会の傍聴ご希望の方が1名いますため、本会議は公開となります。
会 長	平野会長挨拶

【議事】

(1) 「第4期障がい者計画」「第6期障がい福祉計画」「第2期障がい児福祉計画」の進捗について

事務局 資料1に基づき進捗説明。数値の変動、取組内容変化があったものを報告。手話通訳者及び要約筆記者の派遣事業について。昨年より50件以上増加、医療通訳や社会参加に関する依頼であった。令和3年から徐々に派遣件数増加、新型コロナウイルス流行前の平成30年度派遣水準を超える件数であった。相談支援体制の充実について。年々増加している。この後の議題2の相談支援事業の実績報告で詳しく説明される。児童発達相談センターの巡回相談について。保育園の要請をうけて専門職が助言や指導を行う事業である。令和4年度令和5年度から園からの依頼が増えている。放課後等デイサービスの利用促進について。令和5年度の実績の人数253人と計画見込量146人と比較して100名を超える実績。見込み量は前回の計画で算出されたものである。今年度は前年度実績を踏まえて見込み量を出している。安全安心に暮らせるまちづくりについて、災害時要支援者名簿の登録の情報提供を行っていた。令和5年度末から防災危機管理課で避難行動要支援者名簿の中で同意を得られた方に個別避難計画をすすめている。防災危機管理課、共生社会推進課、長寿応援課と協議を重ね 令和5年度中に福祉的支援の必要な方の試行を行った。第5期障がい者計画の中では福祉専門職の個別避難計画の作成活用として新たに掲載している。

(2) 相談支援事業の実績報告について

会長 相談支援事業の実績について、志木市基幹福祉相談センター岡野氏、社会福祉法人邑元会しびらき日下氏より、それぞれ報告をいただく。

基幹 令和5年度の志木市基幹福祉相談センターの相談実績について報告。志木市基幹福祉相談センターは後見ネットワークセンター、障がい者基幹相談支援センター、生活相談センターの3つの機能がある。障がい者基幹相談支援センターでは、障がいの総合相談、地域移行支援、計画相談事業所の相談、自立支援協議会の運営などの役割を担っている。相談件数は令和4年度と比較すると来庁での相談が増え、また精神障がいのある方の相談が7割を占める。地域の相談支援事業所から依頼され担当者会議に参加するなど関係機関との連携強化に取り組んだ。

委託 生活で困っていること悩み事を受け入れる障がい者の総合窓口として機能している。令和5年度の委託相談の相談実績は相談者の人数増加傾向で、精神障がいのある方の相談が増えている。相談方法は、電話相談、関係機関からの相談が多い。精神障がいの方は直接メールでの相談も多く、メール相談件数は今年度655件であった。相談内容は福祉サービス、情緒安定、生活技術に関する内容が多数を占めている。認定調査は58件と微増している。関係機関の依頼から相談支援に繋がったケースも多い。今後は、地域生活支援拠点等の体験する機会の場合、家族への啓発などを基幹福祉相談センターと連携して対応していきたい。

(3) 部会活動報告

部会長 ビジョン部会では、第5期障がい者計画の内容の協議を行う。基本理念の検討を行った。当事者で構成されている部会でもあるため、団体メンバーの高齢化、新規加入がないとの課題もあがった。制度がなかった時代に自分たちが活動してつくりあげてきた。現在、支援

が充実している中、制度をどう活用していくのかをどう伝えていくかが課題という意見もあった。また、地域生活支援拠点等の整備に向けて意見交換を行った。

部会長 暮らし部会は、年4回開催。第5期障がい者計画、第7期障がい者福祉計画、第3期障がい児福祉計画策定に向けた取り組みの他、各プロジェクト活動（医療的ケア児支援・教育と福祉の連携・志木まるごと地域支援等）を中心として実施した。

オブザーバー 医療的ケア児支援プロジェクトチームでは MCS という医療介護情報連携ツールの導入を検討している。また、災害時に備えた平時からの取り組みとして、アンビュバックの使用を医療機関、保護者、支援者で実践した。

委員 教育と福祉の連携プロジェクトでは、事業所間の交流と教育機関と福祉の連携を図るための支援会議を開催している。

委員 学校への巡回相談を行う中で、家庭支援の必要性を感じている。家庭と学校と福祉の連携が重要である。

委員 志木まるごと地域支援プロジェクトへの参加をとおして顔の見える関係ができ、関係機関からの依頼も増えている。入院先に訪問し、地域生活のイメージづくりをしてもらう。

（4）その他

事務局 令和5年度障害者差別解消法及び障害者虐待防止法に係る対応状況の報告次回全体会は来年1月を予定している。